

第4章

文化財の保存と活用が目指す将来像と基本的な方向性

1. 目指す将来像

文化財は、本市の特徴的な歴史文化の中で生まれ、今日まで地域の人々によって守り伝えられてきた貴重な財産であり、人々の誇りである。文化財を大切にすることで、地域への理解や関心を深め、愛着を持つことができる。そして、それは一人一人の心を豊かにすることや、人々が支え合う地域づくりにつながる。また、文化財の所有者や行政機関だけでなく、市民や関係団体、市外でも興味を持っている人など、多くの人々が協力することで、文化財を核とした様々な活動が活発に行われ、地域が元気になることができる。

本計画では、「目指す将来像」を次のとおりかけ、今ここに暮らす人々が誇りと感じるだけでなく、未来の人々もこの場所が誇りだと思えることができるよう、多くの人々の手で文化財が守り伝えられ、「誇りをつなぐまち」を目指す。

誰もが掛川市の歴史文化を愛し、誇りをつなぐまち

2. 基本的な方向性

「目指す将来像」に向けて、次の5つの方向性により、本市の文化財の保存・活用を計画的に進める。

知る 地域を調べて文化財を知る

歴史文化の特徴を明らかにするために、人口減少や自然災害などによる散逸・消滅の危険にさらされている文化財の所在と価値を把握することが急がれる。また、自らの地域を見つめ直して地域の文化財を発見することは、地域を誇りに思う重要な取組でもある。

そのため、本市全域のあらゆる分野の地域の資源について調査・記録すると同時に、価値を研究し、「知る」取組を進める。

学ぶ 文化財の価値と魅力を学ぶ

本市の歴史文化を愛し、誇りに思う人を増やすためには、まず地域で暮らす人々に文化財を身近に感じてもらう必要がある。

そのため、高天神城跡、横須賀城跡、和田岡古墳群の3史跡や松ヶ岡の整備、展示会や講座の開催、展示施設や説明板の整備など、文化財を公開し、市民が文化財の価値と魅力を「学ぶ」機会を積極的に設ける。

まもる 文化財をまもり将来に伝える

歴史文化の象徴である文化財を着実に後世へ継承するためには、それを適切に保存・管理し、「まもる」ことが必要不可欠である。

地域において大切な文化財を将来へ伝えていくため、文化財の所有者や地域、国・県と連携し、資料のデジタル化も積極的に取り入れながら、保存から日常的な維持管理までを確実に実施する。また、文化財を自然災害や盗難から守るため、防災・防犯の仕組みを整える。

広げる 文化財を活かし歴史文化を広げる

本市の歴史文化を愛する人をさらに増やすためには、文化財の情報を広く発信し、関係する団体と連携して、文化財の保存・活用をさらに進めることが不可欠である。

わかりやすい情報発信を行い、地区まちづくり協議会、学校、行政内の関連部局、専門機関や大学などとの協力の輪を「広げる」。そして、観光・産業振興、教育、地域コミュニティの再生など、文化財を活かす取組を進め、歴史文化の薫り、地域の魅力を市内外に「広げる」ことを目指す。

つなぐ 文化財の担い手を育てつなぐ

「目指す将来像」に向けて長期的に取組を続けるためには、文化財を保存・活用する人々を育てることが重要である。

そのため、地域の文化財を保存・活用する団体を支援する仕組みづくり、専門職員の育成などを通して、地域や行政内で、今、文化財の保存・活用を行っている人と、未来の文化財の保存・活用の担い手となる人とを「つなぐ」取組を進める。

